

比較文化演習Ⅱ

選択必修 2単位

濱田 陽

1. 授業の概要(ねらい)

文化学的アプローチにより、専門分野を深めた、また、複数領域を横断する、開かれた広い視野に立つて日本文化を研究、発表する応用力を養う。他のゼミ・メンバーの研究テーマに親しみ、新たな日本文化研究を共に推進する。

今日、日本文化の研究領域とテーマは多岐に及ぶ。【本演習では、哲学、神話、宗教、思想、環境、教育、文学、歴史、言語、生活、風俗、芸術、芸能、サブカルチャー、観光、科学等の複数領域を視野に、死生観、樹木葬、幸福論、日本文化と恐怖、阿修羅像の魅力、日本の里山、日本人論、日本の記念日、日本の時計文化、日本文化にみるジェンダー、紙とデジタルの出版文化、無形文化遺産としての和食、発酵食品、喫茶文化、和菓子、日本酒と若者、ストリート・ファッション、化粧、日本の色彩、日本語ルビの多様性、日本アニメーションの特徴、日本アイドルの魅力、群像的キャラクター、実写化、日本の科学技術、日本サッカーによる地域振興、日本庭園、日本の玄関、SNSとアイデンティティ、折り紙文化、招き猫、家紋の多様性、虫文化、都市伝説など、じつに多彩なテーマでの研究がなされてきている。】

後期は前期からさらに発展させた独創的な研究テーマを推奨する。初顔合わせにより前期以来の研究テーマについて意見交換、前期末にすべてのゼミ・メンバーの意見を集約して決定した発表順、ゼミ運営方法等、研究発表のための再確認を行う。その後、自身の研究テーマについて、集めた情報・資料を選択・整理・分析・総合し、「研究レジュメ」(暫定版)を準備、発表する。

演習の全過程を通じ、ディスカッション・発表で寄せられた多彩な意見を検討・反映し、研究内容をさらに推敲・発展させた「研究レジュメ」(完成版)を作成、オンラインと印刷物で提出する。

2. 授業の到達目標

独創的な研究テーマに磨きをかけ、次年度演習・卒業論文・卒業後の展望等を見越した研究成果をまとめ、「研究レジュメ」(完成版)(具体的に、研究テーマ、キーワード、研究動機、研究仮説、研究事項、研究計画、情報・資料引用例、背景知識、参考文献、参考WEBサイト一覧、等についてまとめたもの)を完成させる。

3. 成績評価の方法および基準

演習参加度と個人発表(60%)、「研究レジュメ」(完成版)(40%)

4. 教科書・参考文献

参考文献

必要な資料はプリントで配布

5. 準備学修の内容

・定期的に、図書館、インターネット、コロナ状況下で可能な範囲の実地調査を活用し、研究の軸・糧となる紙媒体情報(主として参考文献)、デジタル情報(参考文献・論文のデジタル版、参考WEBサイト、データベース等)、自己取得資料(自ら撮影した写真・動画、ノート、収集物等)を発掘、集積するよう工夫する。

・発表のパワーポイント、レジュメ等の電子データは発表日前の日曜日23時59分までにLMSオンライン「掲示板」の専用フォーラムに送信、掲載する。

・パワーポイント、レジュメ等の印刷物(発表者・指導教授を含めて必要部数)は発表者が当日、準備する。

・LMSオンライン上で重要な情報はUPしていくため、対面授業の前後にLMSも確認すること。

6. その他履修上の注意事項

・LMSオンライン上で重要な情報はUPしていくため、対面授業の前後にLMSも確認すること。

7. 授業内容

【第1回】 初顔合わせ 研究発表のための事前確認
特別セッション「身体と精神から見る「日本」」

【第2回】 セッションⅠ 暮らしの光と影 *「研究レジュメ」(暫定版)を準備、発表する。

【第3回】 セッションⅠ 暮らしの光と影

【第4回】 セッションⅡ 民族学と文学の邂逅

【第5回】 セッションⅡ 民族学と文学の邂逅

【第6回】 セッションⅢ 流行と精神の行方

【第7回】 セッションⅢ 流行と精神の行方

【第8回】 セッションⅣ 妖怪異界社会問題

【第9回】 セッションⅣ 妖怪異界社会問題

【第10回】 セッションⅤ 地域に潤いを…!

【第11回】 セッションⅤ 地域に潤いを…!

【第12回】 セッションⅥ 人生を豊かにするもの

【第13回】 セッションⅥ 人生を豊かにするもの

【第14回】 特別セッション 「日本人」が生み出した表象文化とは?

「研究レジュメ」(完成版)を作成、提出する。

【第15回】 所定の日に発表できなかった履修者、また、各発表への応答を文書ファイル、音声データを準備して公開、学習する。 *LMSオンデマンド形式による授業、第7～13回(11月～12月)の間で実施